

# 第42回 うつのみやこども賞だより

令和7(2025)年度 7回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

## 《今月選ばれた本》

### 『中受 12歳の交差点』

工藤 純子／著 和田 治男／ミニチュア写真（講談社）



令和7年12月 7日

## ～読んだ本の感想より～

- 中学受験をする三人が、努力をしながら当日しけんをするすがたがかっこよかった。
- 私は中学受験なんて考えたことなかったけれど、こんなに「中受」のやり方がちがうんだなあと思った。
- 私てきには、「稲葉新」の章がおもしろかったです。私の友達でも何人か受験する子がいて、もしかしたらこういう思いをしているのかもと思ったし、もしそうならば、幸弘くんのように支えたいなと思ったからです。
- それぞれタイプのちがう三人がそれぞれの悩みを抱えながら、受験に向けて立ち向かって行くところが良かったです。
- 中学生になる前にどのようなことをするのかと想像できやすい話だった。
- 広翔くんの書いた手紙が私の心に残った。
- 中学受験して合かくしたのに、その学校に行くか行かないかなやんでいたけれど、自分でたくさんかんがえてけつろんを出しているのがすごかった。

## 『ミクとオレらの秘密基地』

真栄田 ウメ／作 カシワイ／絵（岩崎書店）

- 二人のおかげでミクがいろいろ話すようになってよかった。
- 笑わない女を笑わしてやろうという気持ちだけでミクに近づいていっていたけれど、どんどんミクと仲よくなっていったよかった。
- ミクにいろいろなじじょうがありおもしろかった。
- すこしやりすぎではないかとはおもったけど、どりよくでミクがたすけられてよかったと思った。
- 男女、病気、性格関係なしにおちこんでいたミクと友情をふかめられた主人公はすごいと思った。
- 海なし県だからか、「カイジ」や「カイホ」という言葉が新鮮だった。

## 『花の子どもたち』

小手鞠 るい／作 丹下 京子／装画・挿絵（フレーベル館）

- 銃規制について出場メンバー一人ひとりに答えがあっても、それを討論会で意見を出すことが大事なんだと気付けた。
- アメリカと日本のちがうところにおどろかされたり、自分の考える「ふつう」が「ふつう」でなくなるなど共感もできました。世界が広がることが分かるお話でした。
- アメリカと日本のちがいがたくさんあって日本もアメリカのような学校になればいいと思った。
- リサーチの意味など、とっても大切なものをしました。
- あさま山そう事件についてくわしくは知らなかったから、そんなことが日本でおこったということにおどろいた。

## 『まるみかん大一番』

まはら 三桃／作 丹地 陽子／装画・挿絵（小学館）

- まるみかんはみんなの思い出がたくさんつまっているいい場所なんだなと思った。
- 研心が好きなすもうの番付でまるみかんのよいところを伝えていたのがおもしろかったです。
- 大切な「まるみかん」を守るために、苦手なタイプの銀河や広也といっしょにあそこまで行動できるのはすごいと思った。
- 最初はする閉館予定だった図書館でしたが、みんなで協力して残したい人の署名を集めて発表していたのがすごく感動したのでおもしろかったです。
- さいごに図書館を守り切れてよかったなと思いました。